

講演

講演者 シャラド ライ氏

講演テーマ 「21 世紀の教育とは、自ら考える力」

皆さんナマステ。ネパールから来ました、シャラド・ライです。よろしくお願いします。私はネパールで学校を作っていますけれども、今日は主に私がなぜ、その学校を作ったか、その学校を通してどういうビジョンのどういう世界を作っていきたいかについて皆さんにお話ししたいと思います。

まずは簡単に私の自己紹介をさせていただきたいと思います。私はネパールに生まれました。2007 年に立命館アジア太平洋大学に入学しました。なぜ日本に留学したかと言うと、二つの大きな理由がありまして、一つは私が小さい子供の時に読んだ、社会学の本には、ネパールと仲がいい国々の紹介がありました。そこでいろんな国々がありましたが、日本もその一つの国でした。25 年以上も前のことなんですけど、その本に、日本のことはこのように紹介されていました。日本はアジア大陸の唯一の先進国だったんですね。アジアにこんなにたくさんの国々があるのになぜ日本だけだとんと先進国であるのか。その説明が、日本人はすごく真面目でアリのように働くからですって書いていました。その時僕はアリのどのように働くか分からなかった。僕にとっては働くっていう意味は、数時間をかけて 10L のポットに水汲みに行くこととか、やぎの餌を数時間かけて持ってくるとか、ご飯作るための薪を、木材などをジャングルから持ってくることとかそういうことが仕事だったので、ずっと謎だったんですね。

そして 2005 年に、高校 3 年生の時、日本の外務省にネパールからの学生として招待されました。その時日本に来て、東京や大阪とかいろんなところを 2 週間ぐらい、日本の素晴らしいところを見させてもらって、その時はアメリカの

方に留学に行くことを検討していたんですが、日本にも行ってみたいなって思うようになりました。それで留学を決めました。だから日本にきました。そして APU（立命館アジア太平洋大学）を卒業してからどうするか決めていなかったのですが、日本のことをもっと知りたかったんですね。この素晴らしい国を作ったのは、日本人の方々なんですね。そういう日本人の方々を育てられているのは学校なんですね。そういう学校の環境を見てみたかったんです。でも外国人にとっては、なかなか学校の一員としてその中身を体験する機会がなかったので、英語の先生として十ヶ月ぐらい福岡にある小学校と中学校で体験をさせてもらいました。

そしてその後、東京大学の大学院に行って修士を取得して、その後また四年半ぐらいソフトバンク本社に、海外の様々な新規事業のところで仕事をやるチャンスがありました。ソフトバンクでは世界中のスタートアップ系企業さんを色々見て審査して、日本にそのビジネスを活かせることができるかどうか、検証を行う実習実験を行って、もしそれはいいということであれば日本でそのビジネスを創っていくということも体験することができました。

2019 年の 4 月からソフトバンクを卒業しまして東京大学大学院の博士課程に入学しまして、今は留学生です。

簡単な紹介がありましたが、ネパールといえばエベレスト山がある国ですね。ヒマラヤ山脈が北の方にあります。また美しい国でもありますね。本当に山が多いですね。ネパール全国で 84% ぐらいは全部山なんですね、数百メートルから 8000 メートルくらいまでの山だらけです。そしてブッダの生まれた国。2600 年前にブッダが

ネパールで生まれました。ルンビニというところですよ。ルンビニという場所には、仏教が多い国々が作ったお寺がたくさんあります。私の故郷なんですけれども、非常に田舎の方にあります。カトマンズから220キロぐらい離れたところで、車で行くと8時間以上かかります。北の方にはエベレスト山があります。北の方を見るとエベレスト山も含めて様々なヒマラヤが見えます。南の方を見ると遠くに、川みたいなものが見えますが、この川はガンジス川の上流なんですよ。エベレスト山から流れてきてる。非常に田舎の方になります。今だに私の家には、まだ電気が届いてないです。だから夜8時頃は基本的に寝ます。ガスもありません。だからジャングルから木材とか持ってきて、ご飯を毎日つくっています。ジャングルにも危険な動物もたくさんいまして、たまにベンガルトラとか出てきたり、チーターとかも出てきたりするんで、まだまだ自然の豊富なところですよ。

こんな田舎に生まれた僕はですね、学校には子供の時は1時間半ぐらいかけて6歳7歳くらいから通っていました。こんなに田舎に生まれて、今の自分になった大きなきっかけは、10歳の時ですよ。僕に奇跡が起きました。それは何なのかと言うとネパール全国から99人だけ特別生として選ばれる一つの制度があります。それで首都カトマンズにある名門学校に入学することができます。小学4年生の時に、その学校にたまたま99人の中の一人として選ばれて、受験制度とかもありますけども、その学校に、国費で入学することができました。その高校卒業するまで全て国にお世話になりました。自分の制服から、学費、夜寝るためのベッドまで、またポケットマネーとかすべて国に出してもらいました。夜寝る前のミルクまで、それを全部出してもらいましたので、自分の人生が全て変わりました。

その学校は結構面白い学校で、イギリスにあるイトンカレッジという学校の姉妹校みたいな感じですよ。1000人ぐらい学生さん達がいて、全寮制なんですよ。この学校にネパール全

国から、日本で言うと47都道府県から一人ずつ毎年その地域を、その県を代表して、その学校に毎年入るような感じですよ。元々、当時のネパールの王様とイギリスのエリザベスさんが一緒に作った学校なんですよ。1972年に。その学校の目的としては、ネパール国をこれから変えていくことになるので、それぞれの地域を変えてくれる若いリーダーたちを育てるためにネパールの当時の王様が、各地域から代表として選ぶような仕組みにしました。この学校は長いお休みの時だけ自分の家に帰ることは出来ます。この学校には元々は男子だけでしたが、1993年の頃、ダイアナさんが女子寮も一緒に作って、女性も入ることができるようになりました。今は40%ぐらいは女子の学生さんたちですよ。この学校の60%ぐらいはネパールのエリートさん達なんですよ。王様の子供とか、すごいお金持ちの子供とか。皆さん受験して合格していきますけども、お金払う人々と40%ぐらいは僕みたいな感じで、田舎とかお金が元々払えないとか、そういうネパールでまだまだカースト制度もありますけどもその一番下から送り出す、全部を代表するミニネパールみたいな感じの学校ですよ。

小学校4年生から高校卒業するまで全て国が僕のお金を出してくれました。そのおかげで立命館アジア太平洋大学に入学することができて、また東大にも行けまして、ソフトバンクでも素晴らし最先端の事業とかビジネスの機会とかも学ぶチャンスをいただきました。だから自分の国に恩返ししないといけないな一っつとずっと思っていたんですよ。でもこの恩返しということは、愛情表現と同じで、形にするのはすごく難しいものではあります。だからずっと自分の国に恩返ししたいけど、どうすればいいか迷っていたんですよ。

APU大学4年生の時、2010年頃、ちょうどフェイスブックとかSNSとかがはやり始めていたところで、僕は10歳までの自分の村の友達とか先輩とか仲間とか何しているかを色々ネットで検索しました。友達申請したりすると、彼らのほとんどが、出稼ぎに、国外に出ていました。

彼らにいろいろ話を聞くと、また自分でもネットで色々調べてみたら、状況が結構ひどかったんですね。その時は毎日 1200 人以上が出稼ぎに、国外に、特に中東とマレーシアなどの国々に出ていました。働くのも長く、毎日、1 日も休まずに働いてロボットみたいです。給料がすごく低い。月に 2 万円ぐらいです。これをイギリスとかの様々な専門家は 21 世紀の奴隷制度に近いんじゃないかという批判や、ニュースも出ていました。毎日 4 人ぐらいの遺体も戻って来ていました。彼らのほとんどが過酷な労働環境の中で体を使って働かないといけなかったんですね。例えば、カタールでワールドカップのときも、大きな施設を作るのも、基本的にネパール人が多かったんですね。ネパールで事前の研修制度もないので、僕の故郷の人がいきなりカタールのスタジアムつくるための何か建物のてっぺんに立って、掃除したりとか、何か作る。作ってって言われたりとなると、英語も分からないので、言葉も分からないので、何言ってるかも分からない。そこから落ちたりとかそういう事件事故にあって亡くなったりとか。私の二人の故郷の友達と先輩も、過去 2 年間で、遺体で戻ったことがあります。

こういう状況がありましたので、自分がそういう人生を送らなくてもいい、よかった。今の自分が全然違う世界を、人生を生きている、それはなぜ？いろいろ考えたら、自分の人生を振り返って、やっぱりそれは教育ですね。僕がきちんとした教育をたまたま 10 歳の時、いい学校で勉強するチャンスを得ましたので、海外に出稼ぎに行かなくても良かった。逆に日本の素晴らしい大学に留学するチャンスを得ました。もし僕の村の友達も、いい学校に通うチャンスだけあれば、彼らがこういう風に遺体で戻って来なかったんですね。彼らが自分の人生を自分が好きなように生きていたでしょう。だからやっぱり教育が人の人生を変えるものだと気づきました。教育があるかないかによって、自分の人生で選択肢が増えるということなんですね。

今、僕の故郷の友達が国外に行き、労働するとき、自分がしたいからしているわけではないですね。僕は留学に行きたいから行っているんですね、自分の人生自分で決めてるわけなんです。でも彼らは、自分がそういう労働をしたいからしているわけではないです。それ以外の選択肢が分からないから、それ以外はできないから彼らが労働に行かないといけなくなっているんです。深く考えてみるとやっぱり彼らが自ら行動を起こせない。言われたことをやる、あるいはその反応をする。言われたことに反応することはできるけど、自ら行動を起こす、音に反応することはできるけど、でも自ら行動を起こす、そういう「自らその行動」を起こせない。なぜかと言うと反応する人と行動する人の間には教育があります。きちんとした教育を受けることによって、自ら自分で色々選択肢を決めて、自分がどんな人生を生きたいか、何をしたいかとか、ちゃんとわかる。そういうことができるのはやっぱり教育だと僕も気づきました。

ネパールで学校がないということは問題ではありません。ネパールのどこでも学校があります。小学校、中学校、高校でも問題はなにかと言うと、「きちんとした教育を学校で学べない」ということが問題なんですね。80%ぐらい国が経営してる学校があります。20%ぐらいは私立学校があります。

この 20%の私立の学校の子供達がお金持ちの人々の子供達です。教育よりもお金の方が目的なので私立学校は、ある意味でこれは会社、日本の塾みたいな感じなんです。オーナーがいて、稼ぐことが第一の目的ですのでお金持ちの子供達に教育を提供する、その代わりに高い学費をもらう。ということはやっぱり大都市にしかその私立学校はつくらないんですね。ビジネスなので。だから 20%ぐらいはその私立学校がどこにでもあり、カトマンズにはめちゃくちゃあります。毎月 10 万円以上払う学費がある学校もあります。

でも僕の故郷みたいな、カトマンズとかそういう大都市以外のところには私立学校はほとんど

どない。作る理由もないですね、ビジネスチャンスがないので。お金ももったいない、ビジネスの観点から見ると。だから国が作った公立学校しかありません。

この公立学校は全国にありますけども、公立学校も、中学校卒業試験にも合格しない。毎年、40%くらいの学生さんしか、中学校卒業試験に合格していません。公立学校から高校卒業もやっぱりそれ以下ですね、20%以下になったりとか。僕の故郷の10歳までの友達のほとんどが高校も行っていないです。中学も卒業していない人々が半分以上です。

だから公立学校の中身が大きな問題です。教育の観点からみると。日本で10ヶ月ぐらい、福岡の小学校と中学校で英語を教えたとき、素晴らしいなって思ったのは、先生方が時間前に学校に来ていること。すごいなと思ったんです。そして子供たちのために事前準備を一生懸命先生がやっていること。子供一人一人を学校の中で教えることだけじゃなくて、学校の本で教えることだけではなくて、子供が家から出てから家に帰るまでは全部先生が親でもあり先生でもあり、全て責任者であるということ。育成する、育てることと教えることが半分半分混ざってるんじゃないかなと思ったんですね。そういう風に先生方が子供達のためにも、子供達の家庭状況も全て把握しながら子供にどういう教育がいかどうかをちゃんと一生懸命考えていて、そこにすごく刺激を受けましたん。

ネパールの私立学校は特に問題ありません、最先端ですのでね。そこからは卒業しましたらほとんどみんながアメリカなどに留学したいとか、お金持ちですのでもどこでも行けます。毎年1万人以上留学に行ったりとか、オーストラリアとか2万5千人以上行ったりとか。彼らのところは何も問題ないですね。

公立学校の中身としては、先生方の、学校によるマネジメントが一番の問題なんです。マネジメントの中で先生方がちゃんと時間通りに来ないこととかも全然ありえますし、事前準備という文化はまだまだ、それは日本では当たり前

の事なんですけども。図書館の重要性とか、図書館のない所が多いんです、パソコンとか、運動場とかもちゃんとあったりとか。だからこの学校のマネジメントが大きな問題ではあります。

学校のマネジメントといえばそんなに簡単なものではありません。これって文部科学省から首相まで関わりのラインがありますね。先生が一生懸命やっけていても、マネジメントのところでその先生を評価してないと。その先生が頑張る、一日頑張ります、頑張りますけど、頑張らない先生と頑張ってる先生の評価が同じだったらモチベーションを失ってしまいますよね。褒めることは大事なんですよ。誰にでも。モニタリングすること、ちゃんと評価する、コメントするとかアセスメントするとか、そういう意識がまだまだ機能してない部分があって、現場の先生方のモチベーションがないことが大きいことではあります。

日本にはありえない所にもなりますけど、ネパールは特に中学校以上は、生徒達も先生達も、政治活動の学生版があつたりとか、先生版がありますので、ぶつかることが多いんですね。例えば、湘南高校だと、自民党の先生、自民党に所属している先生達の全国の組織があることになる。先生方、各生徒が三つの政党に所属している。だから校長先生が決めにくいじゃないですか。校長先生もどこかに所属していますので、学校の将来のためとかアジェンダのためというよりも政党のことが表にでてしまう。反対する人が出てしまうということは、いろいろありますね。

だから公立学校だから変えるのはなかなか難しいということに気づいたので、自分で良い学校を作ろうと思ってこの「ユメスクール」という学校を作りました。これ2011年に作りました。思ってから1ヶ月以内に実際にやり始めたんですけども、最初は一人の先生と8人の生徒たちから始めました。30万円ぐらいの予算で始めました。10万円ぐらいは現地の保護者の方々に頂きまして20万円ぐらいは日本でアルバイトをしたり、いろんな先輩から集めて30万円で

この校舎を作りました。

生まれたばかりの子供達の未来は、政府の学校に任せたくない、任せたら彼らも将来出稼ぎに行かないといけなくなってしまうので、そういう思いで作ったんですけれども、最初はなかなか社会的に、応援していただいている方々もいましたけど、批難する方々とか笑われたりすることもたくさんありました。でもそういうことはあまり気にせず、実際に自分がやりたいことは、僕の出稼ぎに行っている友達の子供達の未来を作ることだったので、粘り強く、そういうこととかを無視して頑張りました。その結果また 2015 年にですね、新しい校舎を作り直すことができました。

今は多くの子供達が保育園と小学校 6 年生まで今この学校にはありますね。この学校は、先生たちが時間通りに来ることとか事前準備することとか、それだけでは足りない、もっと面白い学校、もっと楽しい学校、今、AI などの時代ですので、飛び越えることも全然できますので、色々どうしたらこの学校を面白い学校とか楽しい学校にできるかとかをずっと考えて、議論しました。

今まではこういう四つの柱が主にありました。教育は何なのか、学びは、知ることを学ぶこと、試すことを学ぶ、一緒に生きることを学ぶ、人間として生きることを学ぼうとか。こういうことが今までの教育の中心になって、世界中でありましたが、21 世紀の今の時代ではこれだけでは足りません。

何が今の教育の目的になるかと言うとやっぱり自分自身と社会を大きく変えていくことが、どうしたら変えていくことができるか。それが教育の基礎になっている、ならないといけないということが今の、これからのトレンドになると思います。私が学校を作るのであれば、ここを中心にした学校にすれば面白いなとずっと思っていましたので、今頑張っていますね。

今のこの校舎を、新しく、3 階も増築しました。現在、この一つの学校には 250 名以上の生徒たちがいます。20 人以上の先生たちがいます。

日本からも色んな大学から学生さんたちが、1 年間休学してインターンシップしたいとか、1 ヶ月のインターンシップしたりとかしていますね。

赤い帽子がありますが、僕は日本の福岡の学校で体験、経験して面白いと思ったことを色々自分の学校に導入しています。僕の大学院の時の先生が言っていましたけれども、やっぱり研究でもスポーツでも何でもどのような分野でも、人って真似ることによって学ぶとおっしゃっていました。やはりいいことは真似するのが全然いいと思っていました。この赤い帽子は僕が大学院の 2013 年の時、駅から 10 分ぐらい歩いて学校まで行かないといけなかったのですが、歩いていたら小さい子供達が黄色い帽子をかぶりながら学校へ歩いている姿見て、この帽子面白いなあ、なんか綺麗ねって思い、自分の作ったのユメスクールの子供達のこととも思い出し、年齢的に近いので自分の子供達にもあの黄色い帽子をプレゼントしたいなって思って、次にネパールに帰った時それを子供達にプレゼントしたらすごく喜びました。また半年ぐらい後また同じ道を歩いて行くと黄色い帽子をかぶっていた子供達の頭には赤い帽子もありましたので、黄色い帽子も綺麗だけど赤いのも何か面白いねって思いました。それが安全帽子だということは後で分かったのですけれども、この学校の子供達にとってはこの帽子は非常に心の支えになっています。

この学校の子供達で、一番遠くから来る子供達は、5 歳、6 歳ぐらいの子供でも 20 人ぐらいの子供達が 1 日学校まで往復で 15 キロ以上歩いたりとかする子供達もいます。ということは 1 日で 4 時間 5 時間ぐらい歩く子供達が多くなります。山を登って学校に行ったりすると、たまには雨が降ったり、たまにはとても暑くなったとか、ネパールは季節的に日本と全く同じです。日本の雨季の時にはネパールではモンスーンがありましてめちゃくちゃ雨が降ります。だから色んな時に、この赤い帽子は安全帽子として役に立っています。子供達が学校に行く時

はネパール全国で赤い帽子をかぶって学校に行ってるのは僕らの学校の子供達だけですので、2時間3時間ぐらい片道で赤い帽子をかぶって行ったら、なんか変に言われたりとかみんなが気になります。それでいろいろ質問されたりすると、それって自分を大切にされているような感じを子供達はもっています。だから心の中では、たぶん日本のことをイメージしたり、自分みたいに日本の子供達も同じように学校に行ってるんだろうなと想像したりしていると思います。そういう遠くにいる友達のことなども色々そういう風に心の支えにもなったりしているので、家でもこの帽子だけは、自分の親も触ってはいけないぐらい大事にしてるらしいです。

また「和の魂」としてこの学校に導入していますけれども、僕にとって和の魂とは、時間を守ること、約束を守ることです。これは日本では当たり前なんですけれども、学校においても、国においても、やはり時間を守ることがとても大事なことです。例えば、国のことを言うと、橋を作る時もし1年で橋を作る予定だったのに8年かかっても中途半端であったら国は発展できないんです。そういうことは沢山あります。多分ネパールだけでなく、これから発展する国々はこういう時間通りにいかないことが多いんです。ネパールもそんなことはたくさんあって、国のリーダーになってる人々も含めてです。それは、社会が時間について、「まあ大丈夫みたい」というような感じに思っているからなので、僕らの子供、小さい3歳ぐらいの時から子供達に時間を守ることの大切さをちゃんと教育すれば、その子供達が大きくなったら、国のリーダーや、地域のリーダーになった時にちゃんと時間通りやるようになります。もしかしたら橋を作るプロジェクトを受け取ったら、ちゃんと時間通りに作るようになります。だから僕は日本で時間を守ることがすごく大事であるということに気づきましたので、この学校でも先生達にも時間通りに、時間の前に学校に来ることとか、言ったことをやる、そういうことを学校に導入しています。また自分達の学校を自分たちで掃除す

ることとか、これは日本の教育の独特な文化だと思いますが、ネパールでも自分達の学校を掃除することがとても大事だなということの子供達は思っています。また保護者会も毎月1回ぐらい行っていますので、保護者も時間通りに学校に来ることになっています。

学校では、英語が基準の学校ですので、ネパール語以外の言語は全て英語で教えています。子供達は1時間目から8時間目までありますけども、8時間目は全て毎日自分が好きなことをやることにしています。それは何なのかというと学校でさまざまな部活みたいな活動があり、音楽や踊りやサッカーがあったり、農業とか絵を描いたりとか全てあります。ネパールでは私立学校以外のところにはなかなか無い新しい文化で、子供達はそれぞれ、年に一度、どの部に入るかを決めます。それで8時間目は全て子供達が自分の好きなことをやっています。だから8時間目は子供達がすごく楽しみにしています。これと同時に、学校の近くに農園も持っています。ユメ農園と言いますが、子供達が自分で育てたり、収穫したものを近くのお店とか親とかがやってるお店とかに行行って売ったりとかして、そんな時は子供達が起業家として、お金の稼ぎ方を初めて体験する、自分で収穫したものを親と交渉して、お金を初めて自分で稼いだということの喜び、そういう経験も出来るのもいいなと思ってやっています。

学校には毎週様々なイベントがあります。やり方としては先生方が後ろから支えることだけなんです。全てのイベント、大会の計画から実行から反省の時まで、全部子供達がやっています。なぜこれをやってるかと言うと、子供達に自分で考えてもらいたい、先生達がちゃんとした計画書を書いて、先生が言った通りやると、言われてやる、反応することになりますので、子供達なりに子供達らしくイベントにするためには、自分自身で考えて一生懸命考えてもらいたいということがこの学校の一つの大きな特徴としてはありますね。ダンス大会をする時も、いくつかのグループがあって、みんなが一緒に

話し合っ解決する事の大事なポイントもあって、どうしたらうまくいくかとか、誰が進行役をするかとか、時間を誰が見るか、最後の片付けまで誰がやるかとか、基本的に学生さんたちが自分達で管理マネジメント能力も身につけるためにそういうイベントをやっています。私も何回かそういうイベントに行った時、ちょっとびっくりしたんですが、子供達が自分自身でいろんなことを自ら、言わなくてもすーっとやっていた姿を見て、こんな子供達が大きくなったら、言わなくてもわかるぐらいのことがあれば、将来大きなことやろうとするときこういう仲間がいると、早いスピードでいろんなことができるんじゃないかなと思っています。

ネパールの公立学校には給食の文化はあまりありません。まだまだこれからなんです。私達は、4年ぐらい前に味の素株式会社が行っている味の素財団というところと一緒に組んで給食も始めています。3時間ぐらい片道歩いて学校に来て、6時間ぐらい学校にいて、また戻ってからです。お腹がすいたままで、いくら楽しい学校にしようとしても、なかなか子供達の健康のためにも、肉体的な成長にもどうにかしたいなと思っていたので給食も提供しています。地域全体で病院もなかなかありません。一番近くの病院に行こうとすると車で4、5時間かかります。出産する時に命が危険な状態になるということも、毎年、何件かあります。私達の学校で給食を提供しながら、学校の子供達の健康管理、健康診断みたいなこともしています。簡単な健康診断なんですけども、自分の身長が初めてわかる時の喜びはおもしろいですよね。12歳ぐらいだけど、自分の身長も分からないし、親も分からないし、体重もどれくらいわかんないけど、体重計と身長を測るものもそろえて、4年前からやり始めたら、ぐんぐんぐんぐん成長しているので、楽しい。大きなことではないかもしれないんですけども子供達はすごく笑って、納得いくような感じがあります。

子供達だけでは、学校だけで教育をしてもなかなか難しいです。学校で6時間過ごして

いれば、家では15時間過ごしている、家の環境がどうなのか、親の態度がどうなのか、親の接し方とかそういうことも影響するので、親の教育、親に理解してもらうことにも結構力を入れています。先生方も、生徒の家に行って保護者と話したり。学校に保護者が来ないんだら、先生達の方が意識が高いということであれば、まず、保護者のところに行くことが大事と最初から思っていましたので、保護者のところに行って、毎年何回かですね、子供のことを報告しています。

こんな感じで様々なことをやってまた日本に来てから APU で学んだことを含めて、東大で学んだこと見たこと、ソフトバンクで世界最先端の企業さんの技術とか、ビジネスとかシリコンバレーのこととかもいろいろ混ぜて、僕が出した結論としては、どこに行ってもどの業界に入っても、学校でも会社でもどこでも、考える力が、力を得ることがやっぱり教育の目的じゃないかなと思いますね。考える力というのは、自分の人生が一つの船であったとしたらその船の船長は自分であること、これが僕の結論になっています。人間って3万日ぐらい生きるらしいです。平均で3万日の中で僕、今33歳34歳になりますけども1万2千日以上はもう終わっている、だからこの3万日の中で1日1日を自分で生きていく、自分の意思でやる。今回の講演も自分の意志で、やりたいからやっていますし、毎日一日一日小さな判断でも、小さなことでも、自分でやりたいからやること。自分でやりたいことがわかる、気付くためにも、教育が必要だなと思います。

日本は基礎教育はほぼ100%をちゃんとうけていますが、ネパールはまだまだなんです。今のネパールの子供たちは読み書きは基本的に90%以上できます。でも読み書きができるだけでは教育とは言えないです。教育って「考える力」です。ネパールから国外に行ってる人々も読み書きは誰でも出来ます。けれど、それを理解した上でちゃんと消化して、自分が何をしたいか、それをわかるということが、その能力を身につ

けることがなかなかネパールの政府の学校ではできていないということになります。だから最終的にネパールの多くの子供達が、自分がどういいう人生を送りたいかとか、そういうことをちゃんと気づいて、自分の人生の船長には自分がなって、生きていくことによって、自分が思って、行きたいからやるのであれば、地獄に行っても楽しんでいるかもしれないですね。でも自分があまりわからないまま適当に、天国に行っても気づかないかもしれない。だから考える力を得る教育が、人の人生を変えるんじゃないかなと思っています。

最後にこの学校を作って僕は将来的にどうしたいかと言うと、自分の国をどうにかした形で、少しでも良くしたい、少しでも変えてみたい。自分にとって、自分の人生をつくってくれたのも国だし、国に恩返ししたい気持ちもずっと心の中にありますけども、それ以上に自分の国は自分のお母さんのような存在なんですね。ネパールはまだまだ発展してない国ですけれども、可哀想とかそういう風に言われて欲しくない。なぜかと言うと子供にとって自分のお母さんってどれぐらい年をとっても、どんな顔しても、世界で一番美しい女の人って言えば自分のお母さんになると思います。僕にとっては、ネパールという国も似たような存在になります。ネパールはこれから発展していく、それしかないです。これから発展するしかないですね。だからチャンスはたくさんあります。明治時代の日本みたいな感じなんですね。これから病院、これから先生達が時間通り学校に行く、これからやることはいっぱい山ほどある。

そしてしたいことがある時、一人ではできないということはずっと思っています。そのために何が必要かと言うと仲間、同じ山を登りたいと思っている仲間が周りにどれぐらいいるか。志を持って、ネパールという国を愛してる、そういう仲間づくりの場としてこの学校が最終的になってほしいと思っています。

ここの卒業生達がアメリカに行ってもいいし東大に行っても、宇宙に行ってもいいけれど必

ず自分の国に戻ってほしいということがありません。でもそれは学生さん達それぞれの判断なので強制的ではありません。でも今学校の中では、ネパールをこれから変える、変えるんだという文化を育てたいなとずっと思っています。

今の日本を誇りに思っている日本人の方々が多いと思いますけども、それはなぜか。今の日本を、アジア大陸でどの国よりもいち早く先進国になった日本に誇りがあると思いますけども、なぜこう思えるかと言うと、いろんなことがあると思いますけども、一番大きいと僕が思っているのは、日本人が作った国だからですよ。もしこの日本という国が、アメリカとかイギリスとかのお土産でもらっていたら、誰も、誰一人誇りには思っていなかったでしょう。自分のおじいさん達が一生懸命頑張って、自分のお子さん達のために、血を流して、命をかけて作った道路、作った病院、作った今の国なので、今産まれた子供達も、子供は気づいてない子供達も多いかもしれないけど、誇りに思える。

ネパールもこれから発展していく、これが日本とかアメリカとかのお土産で発展することになったら誰も誇りに思わない、幸せにはならないでしょう。これから発展するのであればネパール人が先頭に立って中心になって、日本とかアメリカとか、神様もですね、応援する、でも中心には先頭にはネパール人になること。そのために誰が必要かと言うと、実行力を持っているネパール人が何人いるか、千人いるか、1万人いるかで国は変わっていく。そういうことを最終的にやっていきたいと思っています。仲間づくりの場としてこの学校を作りました。以上です、ありがとうございます。